

はるかな尾瀬

一目次

- 02 特集「尾瀬高校がめざすもの」群馬県立尾瀬高等学校自然環境科
- 04 現地情報(番外編)
 - ①ブログで振り返る平成30年シーズン
 - ②第1回冬期調査
- 07 平成31年シーズンの尾瀬についてのお知らせ
- 08 尾瀬のミニ観察《総集編》③
- 09 TOPICS
- 10 テーマスライド ビジターセンター職員の仕事と生活
- 12 平成30年度尾瀬保護財団の主な活動
- 13 尾瀬ボランティア情報
- 14 尾瀬保護財団からのお知らせ



2019.3 vol.39
(公財) 尾瀬保護財団



瑞々しい尾瀬(見晴十字路) 撮影日:平成29年6月17日

「尾瀬高校がめざすもの」

群馬県立尾瀬高等学校自然環境科

尾瀬高校自然環境科が設置されてから23年が経ちました。ここ最近では実習やイベントなどで校外へ出かけたときにお声をかけていただく機会がとでも多く、皆様に尾瀬高校を認識していただいていることを実感、大変に喜ばしいことだと感じております。今回、そんな尾瀬高校が日々どんな学習をしているのかをお伝えできればと思います。

尾瀬高校は昭和37年に沼田高校武尊分校として創立され、その後武尊高校に、さらに平成8年に全国で初めて自然環境科を設置し現在の尾瀬高校に改称されました。あわせて自然環境科について学びたいという意欲を持った生徒を全国から受け入れるため、学校周辺の一般家庭に3年間ホームステイをして通学する「尾瀬ハートフルホーム・システム」制度を設けました。自然環境科は1学年32名定員（ほかに普通科があり1学年2クラス）ですが、毎年10名前後の生徒がこの制度を利用して入学しています。同じ群馬県内の前橋、高崎などから来る生徒、関東圏では東京、埼玉、神奈川、千葉、栃木から、他にも北海道や九州など全国各地から生徒が集まっています。自然環境科は設立当時から「人と自然との共生」を図ることのできる人づくりという目標を掲げ、自然について正しく理解し、その素晴らしさを多くの方に伝えていくことを毎月1回程度の校外実習や週4時間前後の環境専門科目を通じて学んでいます。

1年次では「知る」をテーマに外部講師から自然観察会を通して、尾瀬をはじめ地元地域の自然について専門的に学びます。6月に鳩待峠から尾瀬ヶ原



尾瀬ヶ原での自然観察会

を歩き、9月には大清水から尾瀬沼を歩きます。現地で講師から聞いたこと、また自分で観察したこと、気づいたことをフィールドノートにしっかりと書きとめ、さらに帰校後は生徒同士で情報確認、また異なるグループ間で情報交換を行い、しっかりと定着させていきます。

2年次では「調べる」をテーマに生徒自らが機材や図鑑を用いて自然環境調査を行います。7月には尾瀬ヶ原で川や池塘などの水質調査と、ホソバヒナウスユキソウやオゼソウなどの生息状況と登山道の状況を記録する至仏山東面登山道調査を、8月には鳩待峠くアヤマ平く富士見峠のルートで植生調査を行います。帰校後は現地で記録した結果をもとに個人やグループで考察を立て、最後にはクラス全体でディスカッションを行い、尾瀬の自然について全員で考え、説明していきます。

3年次には「伝える」をテーマに1・2年次に学んだことを活かし、生徒自ら県外の小学生を対象にした自然観察会を企画し現地を実施、尾瀬の自然について分かりやすく興味を持ってもらえるように伝えていきます。

また、課外活動の一環として理科部が中心となって休日や長期休業中、放課後等に尾瀬であらゆる調査活動を行っています。中でも湿原の掘り起こしなどが長年問題となっているニホンジカについて、夜間にライトを用いて湿原を照らし発見場所や頭数を記録するライトセンサー調査や、湿原内に残された糞や足跡などを記録するフィールドサイン調査を10年以上継続して実施しており、どこにどれだけのニホンジカが現れ、どれくらいの



小学生を対象にした自然観察会



尾瀬ヶ原での水質調査



授業風景（環境専門科目）

被害を与えているかなどを調べています。また、大清水湿原でもここ数年二ホンジカがミズバショウの群生を食い荒らすという被害が顕著になっているため、地元の行政や企業など関係者の協力を得ながら大清水湿原の自然環境を復元していく活動を行っております。

これら校外実習や課外活動で得られた成果は県内外の理科系コンテストや環境系のイベントなどで生徒自らが発表し、尾瀬の姿や直面する課題について多くの人に伝えていきます。

このように3年間、尾瀬をはじめ地元地域の自然環境を舞台に体験や学びあいを重視した学習を行い、また世代を超えた多くの人と交流を通して生徒は成長しています。これまでに自然環境科だけで600名近くの卒業生が巣立っていましたが、卒業後も理系の大学に進学する者や、大学卒業後に自然環境に関わる業務や、尾瀬に関わる仕事を行う者もおります。しかし、それ以外にも県内外で教員や警察官、自治体職員、看護師、介護士、保育士、農林業、製造業、サービス業など多岐にわたって卒業生が活躍しています。一見すると自然環境とはかけ離れた業種、職業に就いている者もいますが、自然環境科を卒業したからといって直接、その分野の職業に就くとは限りません。それぞれの仕事に取り組み中で、またライフワークの一環として、自然環境の保全やアウトドアなど野外の活動などに関わったりしてほしいと考えています。なにより、自然環境科で学び培った能力をそれぞれの分野でいかに発揮してほしいと考えています。

これからも「人と自然との共生」を図ることのできる人づくりを目標に、自然について正しく理解し、その素晴らしさを多くの人に伝えられることのできる人を育てていければと思います。



3年生最後の実習にて
(群馬県沼田市 玉原高原)



夜間のライトセンサ調査

在校生インタビュー



自然環境科2年
山田梨加さん
(群馬県藤岡市出身)

Q. 自然環境科を知ったきっかけや、入学を決めた理由を教えてください。

A. 同じ群馬県なので、名前は知っていました。普通の高校ではできない経験をしたくて入学しました。現在はホームステイ制度を利用して通学しています。

Q. 実際に入学してみた感想はいかがですか。

A. 尾瀬高校ではいろんな人と交流したり、いろんな場所に行ったりするなど、良い経験が出来ていると思います。地元にある高校ではできないようなことだと思います。

Q. 尾瀬に対する考えや思い、実習中の思い出などありますか。

A. 尾瀬高校にいと尾瀬に行くことが当たり前になっていますが、他の方と話をすると尾瀬はある意味特別な場所であると聞きます。そういった中で、尾瀬に気軽に行けるのは貴重なことだと思います。また、尾瀬はいろんな人が関わっているのが印象的で、動植物など自然だけでなく、人とのかかわりの深さがあると感じています。

Q. 将来の夢や目標、興味関心があれば教えてください。

A. 高校に入る前は自然に関わる機会もなく、自然のことを知りませんでした。ですが、今は自然とのかかわり方を学び、自分の知らないことをいろいろ知りたいと思い、いろんなことに興味が増えています。自分自身の体験を大事にし、今後は海外にも目を向けるなど自分の興味関心をより広げられるようにしていきたいです。

卒業生インタビュー

Q. 尾瀬高校に進学したきっかけを教えてください。

A. 進学のかきは自身の興味との合致と中学校の先生からの勧めです。自然環境分野に元々興味を持っていた私に、中学3年の担任の先生が「こんな学校があるけど、どう？」と勧めてくださいました。とても良い学校だと太鼓判を押され、進学を決意しました。

Q. 自然環境科での3年間を振り返って印象的だったことはありますか。

A. 印象的であったのは3年次の実習です。実習は、これまで勉強してきた内容をフィールドに出て自然観察会を通して他者に発信するといった内容です。1年次、先輩方が観察会を行う姿を見て大きく感動した覚えがあったため、実習を通して自分自身がそのレベルに近づこうと努力したことはとても印象に残っています。

Q. 現在、取り組んでいることや将来のことなどお聞かせください。

A. 現在は、尾瀬高校で学んだことを生かし、県外の大学で植物生態学、特に外来植物の研究を行っています。将来もこの方向性は変えず、自然環境関連の仕事を目指しています。特に保全や魅力の発信に携わりたいと考えています。



平成25年度自然環境科卒
大嶋克海さん
(群馬県沼田市出身)

【番外編】①

ブログで振り返る 平成30年シーズン

早いもので、もうすぐ尾瀬のシーズンが始まりますね。道路が開通したら、すぐに尾瀬に入りたくと計画している方もいるのではないのでしょうか。シーズンを迎える前に平成30年シーズンを振り返ります。「へえ〜そうだったんだ。」そういうこともあったんだ。」などと思いつつ読んでいただけたら嬉しいです。

5月16日

（今シーズンもよろしくお願ひします）

〜山の鼻ビジターセンターより〜

本格的に尾瀬のシーズンがスタートするのを前にして、本日、山の鼻ビジターセンターの開所式を迎えました。麗らかな天気の下、尾瀬ボランティアの方による草笛とハーモニカ演奏が披露され、それに合わせて参加者が皆で合唱するなど、和やかな雰囲気の中で開所式となりました。



5月21日（かわいいミスバショウ）

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

尾瀬沼、尾瀬ヶ原、その他の湿原で、ミスバショウが見ごろを迎えています。

手のひらくらいの大きさから小指の先くらいの小さなもので、いろいろな大きさのミスバショウが咲いています。



6月16日（シカ柵設置の様子）

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

本日は大江湿原の植生保護活動の一つであるシカ柵の設置を行いました。営林署の方を中心に環境省の自然保護官や尾瀬ボランティア、企業ボランティアなど70人以上の方が参加しました。このシカ柵は総延長が3.5kmあるそうです。そのうち今回は1.0kmのシカ柵を設置しました。皆さんの力で効率よく作業を進めることが出来ました。



7月1日（至仏山開山！）

〜山の鼻ビジターセンターより〜

本日は至仏山の開山日！鳩待峠で開山式が行われました。天気も良く、絶好の登山日和。下からカメラでズームしてみると、至仏山はたくさんさんの登山客でにぎわっていました。



7月8日（外来植物の駆除作業）

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

昨日、尾瀬の生態系を守るべく、ボランティアさん、尾瀬関係者が集まり外来植物の駆除作業を実施しました。作業開始とともに強い雨が降り出して、作業がやりにくい時間帯もありましたが、参加者が精力的に作業した結果、登山口付近のオオハンゴンソウは見事に駆除されました。駆除したオオハンゴンソウはゴミ袋に詰めて軽トラックに積み込みました。軽トラック2台にいっぱいになりました。



7月15日（混雑する尾瀬ヶ原）

〜山の鼻ビジターセンターより〜

三連休の中日に当たる本日も多くのハイカーで賑わいました。尾瀬ヶ原が混雑している中で静かな山歩きが楽しめるのはアヤマ平です。標高も高いので歩きやすい気候です。昨日今日と暑い日が続いています。



8月2日（夏の星空観察会の様子）

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

夕方7時からスライドを使って夏の星座

について解説がありました。星座と主な星の解説が終わる頃、金星や木星などが輝きだし、ビジターセンターから移動して山小屋などの照明から離れたところで星の観察を行いました。



8月3日（尾瀬子どもサミット）

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

7月31日より尾瀬沼周辺で行われていた福島県、群馬県、新潟県の3県の児童生徒57人が集まった尾瀬子どもサミットが先ほど終了し、皆さん元気に帰って行きました。昨日は、ビジターセンターのレクチャールームで全体発表会が行われました。2日間尾瀬の動植物、昆虫、歴史、そして環境保護への取り組みについてガイドさんや尾瀬で働く方々に話を聞いたり、実際に尾瀬の自然とふれあったりしながら、班ごとにテーマを決めて尾瀬沼周辺を回っていました。発表会では大勢の参加者や引率者の前で、みんなで分担し合い、はっきりとした口調で発表していました。



8月10日（新しいビジター玄関）

〜山の鼻ビジターセンターより〜

山の鼻ビジターセンターで工事中となつて

いた玄関が完成し、本日より通行可能となりました。

工事中は皆様大変ご不便をお掛けいたしました。職員一同、気持ちも新たにお客様をお迎えしてまいります。



8月15日

〔新・尾瀬ビジョン〕意見交換会

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

初めに、主催者から「新・尾瀬ビジョン」の説明があり、その後、これからの尾瀬のあり方について「尾瀬ファンを増やす方法」、「滞在型・周遊型を促進する方法」などの議題について、グループに分かれて模造紙と付箋を使いながらそれぞれの意見を出し合い、出された意見についてグループで意見交換を行いました。



9月9日(ヤマネさん)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

山小屋のスタッフさんから「すぐそこにヤマネが居たんだよ」と報告を受けていて、もしまた居たら教えて欲しいと伝えていたら「今いるよ」と



連絡が！行ってみると：

なんと、巢立った後のイワツバメの空き家でお昼寝中でした。特徴的な背中中の黒いラインとフサフサの尻尾、間違いなくヤマネです。

9月12日(特別な一日)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

9月12日は植物研究員本園入り口にある十二山神様の日でした。写真は果物や魚をお供えしている様子です。尾瀬の自然に感謝し、登山者の方々の安全を祈念しました。



今シーズンもあとわずか、残りの期間も訪れるハイカーの皆さんが楽しく怪我なく尾瀬での時間を過ごせますように。

10月1日(台風後の尾瀬)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

台風24号は尾瀬にも様々な影響をもたらしました。10月1日の朝に行った山ノ鼻地区と尾瀬ヶ原の巡回では、変わり果てた姿が広がっていました。いつも穏やかで、皆様を笑顔にしてくれる美しい自然も、強風や大雨になると、自然のおそろしさを思い知らされます。いつも電気が当たり前に見えることのありがたさ、倒木や



公衆トイレなど、整備してくれる方々への感謝。本当にいろいろなことを考えた一日となりました。

10月16日

(大清水でのボランティア入山口啓発活動)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

10月14日、日曜日に大清水入山口において、朝の7時から尾瀬ボランティアの方々が入山口啓発活動を行いました。尾瀬では、先週末で閉鎖した山小屋や休憩所、トイレなどがあり、大清水から一ノ瀬までの低公害車両も14日で終了となりました。このような最新情報を入山者の皆様に周知するとともに転倒などの事故の無いよう声掛けを行いました。



10月21日

(ありがとう尾瀬と尾瀬ヶ原の様子)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

尾瀬ヶ原で『ありがとう尾瀬』が行われました。シーズンの最後に、尾瀬への感謝を込めて行われる清掃活動で、多くのボランティアに参加していただきました。尾瀬で故意に捨てられたゴミを見ることはほとんどありません。



せんが、お菓子の包み紙などの小さなゴミが落ちていますが、そのようなゴミをみんなで拾い集めました。尾瀬ヶ原も一層綺麗になったことでしょう。

ブログを見ていただいた皆様、ビジターセンターに立ち寄っていただいた皆様、半年間ありがとうございました。また尾瀬でお会いするのを楽しみにしております。

山の鼻ビジターセンター・尾瀬沼ビジターセンター 職員一同



10月31日(平成30年シーズン終了)
〜尾瀬沼ビジターセンター〜



10月28日(平成30年シーズン終了)
〜山の鼻ビジターセンター〜

【番外編】②

第一回冬期調査

尾瀬保護財団では、尾瀬山の鼻ビジターセンターの管理を群馬県より受託しており、尾瀬のシーズン終了時にビジターセンター建物・公衆トイレ等の雪囲いを行ってから下山しています。

そして尾瀬は半年間の長い厳冬期を迎えます。積雪の多い尾瀬なので冬期間に2回特別な許可を得て入山し、建物や橋梁などに異常がないか点検を実施しています。

1回目の冬期調査を11月21日～22日の一泊二日の行程で実施しましたので、その様子をお伝えしたいと思います。

1日目は片品村戸倉の県道尾瀬ヶ原土出線ゲートから自動車で鳩待峠に向かいますが、

道路には積雪は無く、鳩待峠駐車場で積雪2cm程度でした。身支度を整え山ノ鼻へ向け出発しました。木道の上には数センチの積雪があり、



動物の足跡

シーズンを終えた尾瀬では動物たちが入山者に代わって木道を利用してのらくらく無数の足跡が見られました。

山の鼻ビジターセンターに到着後、ビジターセンターの建物点検を済ませた後、天候が良かったので竜宮公衆トイレの点検に向かいました。天候が良かったためか木道には積雪はほとんど無く、誰もいない尾瀬ヶ原を満喫しながらの移動となりましたが、シーズン終了後尾瀬ヶ原に架かる橋は全て橋板が撤去されているので橋を渡る際には落ちないように十分に注意しながらの移動となりました。竜宮での点検作業も無事に終了し山の鼻ビジターセンターに戻りました。

冬期閉鎖後の山の鼻ビジターセンターでは、電気・水道・ガスは利用できませんが、お風呂は配管等が凍結・破裂してしまっているので、利用できません。持参した食材で夕食を済ませ各自床に就きました。

2日目の朝は+3℃と冷え込みも緩く、山ノ鼻地区にある県有施設の点検とビジターセンター内の水廻り最終点検を行った後、鳩待峠に向けて出発しました。至仏山・燧ヶ岳ともに山頂付近に積雪があり雄大な姿を見せていました。鳩待峠では県有設備(案内看板・ボランティアハウス)の点



龍宮小屋と燧ヶ岳

検を実施して、無事に第一回冬期調査を終了することが出来ました。次回の調査は3月中旬に一週間程度で行う予定です。

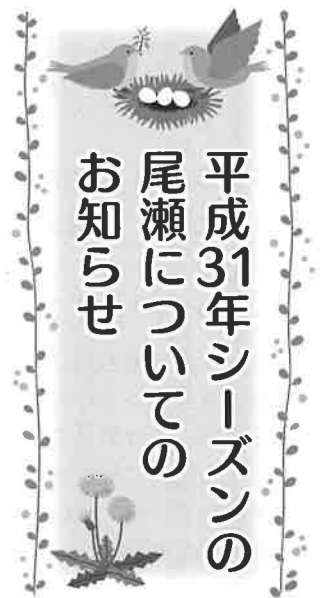
その様子は次回「厳冬期の尾瀬」でご紹介したいと思います。



山の川上川橋



至仏山



平成31年シーズンの 尾瀬についての お知らせ

交通規制

鳩待峠・沼山峠で交通規制が実施されます。

鳩待峠では1~6日間マイカー及び二輪車（オートバイなど）の規制が行われます。沼山峠ではシーズンを通して全車両（ただし、許可車及びシャトルバス等を除く）が規制されます（詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください）。

大清水口で低公害車両の乗合バス・タクシーが
6月中・下旬〜10月中旬（予定）に運行されます。

大清水〜一ノ瀬間については、数年間にわたる協議や社会実験等を経て、平成27年度から低公害車両による乗合バス・タクシーの運行が始まりました。

運行予定の詳細は、群馬県ホームページ等でご確認ください。

至仏山

植生保護の観点より、例年実施している残雪期の登山道閉鎖については、次のとおりです。

〈登山道閉鎖期間〉

5月7日（火）〜6月30日（日）

※雪の状況に応じて、期間が変更になる場合があります。

その他にも、様々なルールがありますので、注意して利用してください（詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください）。

尾瀬山開き

開催日：6月4日（火）

開催場所：新潟県魚沼市

※この山開きはセシモニーであり、周辺道路の冬期閉鎖が解除されるのは4月下旬頃です。春先は豊富に残雪が残りますので、十分な装備を整えて入山してください。

ビジターセンター開所

○山の鼻ビジターセンター

5月15日（水）【予定】

○尾瀬沼ビジターセンター

5月18日（土）【予定】

財団ホームページ

1 ライブカメラ

尾瀬の様子をライブカメラで見ることができません。尾瀬保護財団ホームページの下部にリンクがありますので、ぜひご覧ください。

2 尾瀬だより

現地から最新の尾瀬の様子を毎日お届けして

ます。自然の様子や気温など、尾瀬に行く際にぜひ活用ください。

3 尾瀬情報

現地職員が巡回で収集した情報を「尾瀬情報」にまとめて発信しています。地域ごとの確認や過去の様子を調べるのにも役立ちます。

尾瀬ハイキングガイド

初めて尾瀬に行かれる方や、何を準備したらよいかわからないといった方のために、「尾瀬ハイキングガイド」をご活用ください。尾瀬のマナーや地図、また装備品について掲載しています。尾瀬保護財団のホームページからダウンロードできます。なお、英語版・韓国版・中国語版もあります。

尾瀬認定ガイド

○ガイド依頼の際は、尾瀬認定ガイドをご活用ください。

尾瀬の魅力、貴重さ、保護活動を伝え、安全や行程管理を行う尾瀬認定ガイドを、環境教育やエコツアーのガイドに是非ご活用ください。

〔登録者数〕

・尾瀬自然ガイド 251名

・尾瀬登山ガイド 67名

（平成31年2月末現在）

【問合せ先】

尾瀬ガイド協会事務局（尾瀬保護財団）

TEL 027-2200-4431

尾瀬のミニ観察 《総集編》 ③

平成30年4月6日発行の第36号で惜しまれつつも最終回を迎えたフラワーエコロジストの田中肇さんによる人気コラム「尾瀬のミニ観察」。今回は総集編の第3回をお送りします。

＊ タテヤマリンドウ (果実：6月～7月)

尾瀬ヶ原が最も美しいのは雨の日だ。そして植物たちは晴れた日とは違う振る舞いを見せてくれる。

雨の日、花は閉じているが、それとは反対に実が開く。淡黄色で楕円形の唇を大きく開いて雨粒を待つ。唇の中にたまった雨水の底には、胡麻のようなタネが沈んでいる。この唇の中に大きな雨粒が落ちると、タネは水と共に遠くに弾き飛ばされるのだ。と、書いたが私はその飛び散る現場を見ていない。運よく雨の日にタテヤマリンドウに出会ったら、観察してみませんか。

第9回 vol.13 (2010.6) 掲載



＊ ツルニンジン (花期：8月中旬～9月中旬)

花の色は鮮やかなものだけとは限らず、スズメバチやハエの仲間に好まれる花は、地味な緑色や褐色だ。

ツルニンジンの花は直径3cmもあるのに下向きに咲き緑色で目立たない。花の中をのぞくと、底には青紫色の星形のマークがあり、星のところが先端に蜜が光っている。私は訪れたクロスズメバチの一種をみた。背は花粉で白くなり、花の中心に立つ雌しべに触れていた。

花の中を観察するときはスズメバチに御用心だが、一度は青紫色の星を見てほしい。

第10回 vol.14 (2010.10) 掲載



＊ 花びらって何？

今回はちょっと安心する話題です。

「ニンソウの白い花びらは」などと説明しているとき「白いのは花びらではなく萼片だ」と訂正された経験はありませんか。花びら=花弁 と思い込まれていますが「花びら」とは、花の目立つ部分をさし示す一般に使われる言葉です。植物学的に定義された学術用語ではないので、文部科学省の「学術用語集」には載っていません。

ですから、ゴマナ(左上)の舌状花冠、ニンソウ(右上)の萼片、コオニユリ(左下)の花被片、トモエソウ(右下)の花弁、みな花びらでいいのです。

第11回 vol.15 (2011.1) 掲載



＊ ミズバショウの花

ミズバショウの白い苞の中の緑色の柱が花の穂だ、と植物学では教えられる。では花はどんな形だろう。

花は4つの緑色の花被片が、雄しべ4本と雌しべ1個を上下左右から包んでいて、菱形に見える。この花はまず、写真の左上や右の花のように、点のような雌しべの先を出して花粉を受ける。その後中央の花のように、下側の花被片の中に隠れていた雄しべが伸び出て、黄色い花粉を出す。翌日は上の雄しべ、次の日に左か右の雄しべ、最後に残りの雄しべがと、順に花粉を出す。

第12回 vol.16 (2011.3) 掲載



(フラワーエコロジスト 田中肇)

第23回NHK「わたしの尾瀬」写真展（高崎展・前橋展）
を開催いたしました

※今後、東京・埼玉・新潟・福島を巡回予定

平成30年12月に高崎シティギャラリー、平成31年1月に群馬県庁において、「わたしの尾瀬」写真展の高崎展・前橋展がそれぞれ開催されました。23回となる「わたしの尾瀬」フォトコンテストには全国から649名の応募があり、会場にはその中から50点の力作が展示されたほか、財団の活動を紹介するパネルや片品村俳句大会の入選作品、檜枝岐村の尾瀬書道展の入選作品も展示され、大勢の方が来場されました。

会場には、尾瀬に何度も足を運んでいる方も、まだ一度も行ったことのないという方も、尾瀬の四季折々の表情を堪能していただきました。

12月14日（金）には高崎会場にて表彰式・交流会が行われ、入選者の方々が多数参加され盛大に執り行われました。会場では審査員である新井幸人さんと今井隆一さんによる作品解説のほか、山の鼻ビジターセンター駐在職員により尾瀬リポートも開催され、今シーズンを振り返りました。

また、交流会では入賞者の皆様が自らの作品の解説を行い、写真に込めた熱い思いを語っていただき、大いに盛り上がりあつという間に時間が過ぎてしまいました。

今後の写真展の巡回予定につきましては、日程・会場が決定次第、当財団ホームページならびにNHK前橋放送局ホームページにてご案内いたしますので、是非会場にご来場いただきたいと思います。



交流会の様子



表彰式の様子

★ご招待券プレゼント★

赤城自然園のご招待券を
抽選で10名様にプレゼントします

「招待券希望」と書いて、住所・氏名・電話番号を明記のうえ、ハガキまたはメールでご応募ください。

ハガキの送り先 群馬県前橋市大手町1-1-1 群馬県庁15階 尾瀬保護財団友の会宛て

メールの場合 ozetomonokai@oze-fnd.or.jp 《締め切り：2019年5月15日（水）》



『色鮮やかに、香豊かに。輝きはじめる“癒しの森”』

四季折々の自然を楽しむ癒しの森、赤城自然園。

木々が芽吹き若葉が瑞々しい春。色とりどりの花の競演が始まります。12万球以上のカタクリの群生、1,000株ものシラネアオイ、東洋一を誇るシャクナゲ園、白い苞が揺れるハンカチノキ。森を楽しむプログラムもご用意して、皆様のご来園をお待ちしております。

●イベント情報 ≫ 園内ガイドツアー 毎日10:00～/13:00～

●インフォメーション ≫

赤城自然園 TEL：0279-56-5211

群馬県渋川市赤城町南赤城山892

開園日：4～11月の火曜日を除く毎日（4/30・5月は無休）12～3月の土曜・日曜日

※火曜日が祝日の場合は翌日が休み。

入園料：大人（高校生以上）1,000円 こども：無料

詳しくは

赤城自然園

検索



公式HP

《テマスライド》ビジターセンター職員の仕事と生活

5月の雪と新生活のスタート

私は今年をはじめて尾瀬山の鼻ビジターセンターで管理員として勤務をさせていただきました。上山した翌日の5月10日、窓の外には舞う雪。普段の生活では見ることのない「5月に降る雪」が嬉しく、外に飛び出し、残雪を踏み抜いて抜けなくなったのを覚えています。山岳地域に長く暮らしたこともなく前職も全く別のお仕事。届かない電波。不安と落ち着かなさを抱えたまま尾瀬での生活が始まりました。

生活面での気遣い

尾瀬に来て最初の食事はカレーでした。山の鼻ビジターと尾瀬沼ビジターの職員合計10数人で囲む最初の食卓。賑やかでなんだか楽しい時間。ただ、大きなテーブルの真ん中には謎のトイレットペーパー。その存在に疑問を感じていると食事を先に終えた山の鼻ビジターの先輩がトイレットペーパーを取り、手にくるくると巻き始めました。目を丸くして見守っていると、先輩はカレーで汚れたお皿をトイレットペーパーで拭き始めます。

ようやく理解しました。答えを求めるように先輩を見ると、食器の油汚れは配管が詰まる原因になるとのこと。配管が詰まって故障すると輸送にへ



上山時の山ノ鼻

リを使用するため修理にとてもお金がかかってしまうことも教えてくれました。ゴミは下げられるけれど排水は環境に影響がある、とも。

その後の生活でもテーブルの上には必ずトイレットペーパー。今までは油污れはそのままの躊躇いもなくシンクに流していましたが必要ににしているから洗う癖がつかまりました。この習慣から気が付いたのは、ある程度汚れを取っておくことでお皿を洗う際に使用する食器用洗剤の量も少なくて済むということ。それに、配管のお掃除をさせていただくこともあるのですが、詰まりが少な

尾瀬で処理できるゴミはない

生活面で驚いたことをもう一つ。普段生活していて必ず出るのがゴミ。今までは週に2回ゴミの日があって、すぐに回収してもらえるので「捨てる」生活が当たり前でした。でも尾瀬ではそうはいきません。印象的だったのは「尾瀬で処理できるゴミはない」という先輩の言葉。食事作りで出た生ゴミは生ゴミ処理機にかけます。ただ捨てれば良いのではなく、野菜の廃棄分(ヘタなど)は小さく切り機械にかけやすくします。トウモロコシの芯もそのままでは入れられないので「切れない！硬い！」などと叫びながらカットしました。生ゴミを減らす工夫(余らないように、とにかく食べる！)のおかげで私の体重が増えたのはご愛敬です。

なによりスーパがあつて、コンビニがあつて、という当たり前のように食材を購入できる生活はありません。今ま



トウモロコシの芯



では勞せずに入っていた期限の短い豆腐や牛乳は貴重です。今シーズンは所長、副所長が野菜を沢山背負ってきてくれました。歩荷さんにも運んでいただいた食材。他の方ほどではないけれど自分でも食材を運んでみて、その重たさを知り、食べ物の有難みがわかった気がします。

尾瀬を支える人たち

ビジターセンターの仕事の一つに山ノ鼻地区の公衆トイレ清掃というものが有ります。管理員が毎日清掃をしている公衆トイレ。山ノ鼻地区では年間約30万人の人が利用しているのだとか。山の上で水洗トイレ？と最初は驚きました。単独処理浄化槽だった昔は、きちんと汚水を処理できておらず環境に負担をかけてしまっていたようです。トイレの汚水や生活排水をきれいにしてくれるのは合併処理浄化槽の中の微生物。清掃の際に浄化槽の中の微生物の活動を助けるために「サナ」という微生物のごはんを入れています。因



山ノ鼻公衆トイレ

みに処理をする機械の操作は私たちではできません。専門の浄化槽清掃屋さんが来てくれます。尾瀬の自然はこうした方々の支えがあって維持できていることも知りました。

季節の連続性の中で見える景色

尾瀬に暮らしているからこそ見える景色があります。湿原を幻想的に彩る朝靄、池塘に映りこむ夏の夕焼け、包まれるような星空と星空を背景にしたハイケボタルの光。来訪していただくお客様は尾瀬のある日の一部分をご覧になります。私たちは何しろ住んでいるので春、夏、秋、それぞれに表情を変えていく「間の季節」も楽しめました。毎日、見たことのない景色や植物との初めての出会い。出会った植物について知りたくて、図鑑のページをめくる日々。ビジターセンターでの勤務開始時に持ってきたピカピカだった尾瀬の植物手帳はめくりすぎて夏にはボロボロになっていました。

尾瀬は不思議な場所

別の山岳地域で仕事をしている知人が先日訪ねてきてくれました。その時に言われたのは「尾瀬は不思議な場所」という言葉。私もおそらく同じ事を考えていて、それは山小屋さんのごはんがとにかく美味しかったり、山小屋さんのトイレが

ウォッシュレットだったりもするのですが、何より「人」が素敵だということ。山小屋さん、ガイドさん、歩荷さんをはじめ、尾瀬には多くの方々が関わっています。冬はそれぞれ別の場所においても春になると渡りをする鳥のように尾瀬に集まいます。話をさせていだいて感じるのには、皆さんが尾瀬を愛しているということ。尾瀬を愛する方々の存在も尾瀬を構成する要素であり魅力なのだと思います。

あつという

間に半年が過ぎ、当初の不安は尾瀬ヶ原をわたる風に吹き飛ばされた様。今は寂しさが募るばかり。シーズン終わり間近、あるガイドさん

に「自分たちは長く携われないけれど大切なことはあなたに伝えるから、頑張って！」と行っていただきました。これは責任重大です。多くの方々に教えていただいたこと、親切にいただいたことに感謝し、私も微力ながら尾瀬の自然を守るために伝える努力をし続けていきます。

(柴崎恵)



ワタスゲ

平成30年度尾瀬保護財団の主な活動

4月16日	至仏山残雪期調査実施	11日	山の日記念「21世紀の森まつり」に出展	1月11日	る小委員会に出席
5月14日	第4次尾瀬総合学術調査団部局長連絡会議開催	19日	尾瀬自然解説ガイド研修会開催	11日	第4次尾瀬総合学術調査団平成30年度調査報告会開催
14日	至仏山新工法登山道試験設置物の現地確認（鳩待峠）の実施	21～23日	福島県尾瀬地区植生復元調査実施	11日	第4次尾瀬総合学術調査団会議開催
15日	尾瀬ガイド協会認定審査委員会・理事会開催	9月4・5日	外来植物分布調査実施	11～16日	NHK「わたしの尾瀬」写真展（前橋展）開催
16日	山の鼻ビジターセンター開所	10月4日	尾瀬サミット2018開催	19日	尾瀬自然解説ガイド連絡会議開催
19日	尾瀬沼ビジターセンター開所	10月10日	ツキノワグマ生息状況等に係るミズナラ豊凶調査実施	19日	尾瀬ボランティア総会開催
6月8・24日	外来植物（ハルザキヤマガラシ）駆除作業実施	10月13日	福島県尾瀬地区植生復元調査実施	23・24日	尾瀬キャラバン開催
2日	ごみ持ち帰り運動実施	10月17日	林野庁による大江湿原シカ柵撤去作業に参加	3月4日	尾瀬国立公園協議会に出席
11日	尾瀬保護財団第20回理事会開催	13日	ツキノワグマ生息状況等に係るブナ豊凶調査実施	11日	尾瀬保護財団第22回理事会開催
13・14日	外来植物分布調査実施	20日	至仏山東面登山道整備（柵倒し）実施	11～15日	平成30年度第2回冬期調査実施
16日	外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業実施	27・28日	秋の上州どっと楽市に出展	27日	至仏山保全対策会議開催
16日	林野庁による大江湿原シカ柵設置作業に参加	28日	山の鼻ビジターセンター閉所	22日	尾瀬総合学術調査推進協議会第2回総会開催
16日	至仏山東面登山道整備（柵立て）実施	31日	尾瀬沼ビジターセンター閉所		
23・24日	尾瀬ボランティア講座開催	11月1日	尾瀬総合学術調査推進協議会第1回総会開催		
27日	尾瀬保護財団第9回評議員会開催	21・22日	平成30年度第1回冬期調査実施		
7月5・10日	福島県尾瀬地区植生復元調査実施	12月14～19日	NHK「わたしの尾瀬」写真展（高崎展）及び表彰式開催		
7日	外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業実施	18日	尾瀬ガイド協会認定審査委員会・理事会開催		
8月10日	山ノ鼻地区ツキノワグマ対策連絡会議開催	20日	尾瀬国立公園適正利用の推進に関する		

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介します。

尾瀬ボランティア総会を開催しました

1月19日(土) 埼玉県川口市の埼玉県産業技術総合センターにて、第22回尾瀬ボランティア総会を開催しました。33名の尾瀬ボランティアの方々にご参加いただき、今シーズンの活動の振り返りと、来シーズンに向けた意見交換などを行いました。

【1】講演

演題① 「新・尾瀬ビジョン」について

平成30年は、尾瀬の保護と利用の在り方を示した「尾瀬ビジョン」が改定された大きな節目となる年でした。改定された「新・尾瀬ビジョン」では地域住民や利用者らの意見を踏まえ、これからの尾瀬がめざす姿と方向性として「みんなに愛され続ける尾瀬」を掲げています。

その「新・尾瀬ビジョン」の改定にあたって、環境省の自然保護官という立場でご尽力された片品自然保護官事務所の庄司亜香音さんをお招きして、「新・尾瀬ビジョン」について講演いただきました。

演題② 尾瀬とシカのこれからを考える
シカによる植生に対する影響は、尾瀬に限らず日



本全国各地で起こっています。尾瀬においてはミズバショウやニッコウキスゲなどの尾瀬を代表する貴重な植物がその被害に晒されており、「新・尾瀬ビジョン」でもシカ問題の取り組みの必要性が掲げられています。

そこで(株)野生動物保護管理事務所(WMO)において、シカの行動生態の研究やシカの捕獲にも携わっている奥村忠誠先生をお招きして、尾瀬のシカについて現在わかっていること、今後の課題などについてお話しいただきました。

演題③ 地上・リモートセンシングによる尾瀬ヶ原湿原におけるシカ個体数推定手法の開発

さらに、広大な尾瀬国立公園において人による踏査が難しい地域でも高精度にシカの個体数を評価する新たな手法に取り組まれている、東京大学生産技術研究所准教授の沖一雄先生から、その研究成果の一端についてお話しいただきました。

【2】平成30年度活動報告および平成31年度活動計画案

事務局より平成30年度の活動状況の説明を行いました。昨年度に比べ、延べ活動者数は減少したものの、実活動者数は増加した結果となったことなどを報告しました。

平成31年度の活動計画案においては、尾瀬ボランティアの活動の基本である入山口啓発活動を中心に、その他活動について実施時期等のおおまかな予定をお知らせしました。

【3】班別討議

6〜7名ごとの班に分かれ、まずはお互いに自己紹介をしていただき、尾瀬ボランティアとしてこれまでの活動について情報交換をしました。また、講

演の内容を受けて「新・尾瀬ビジョンと尾瀬ボランティア」というテーマで、尾瀬ボランティアとしてどのように新・尾瀬ビジョンをめざす尾瀬に寄与できるか意見を出し合いました。



尾瀬ボランティアを募集しています

財団では、尾瀬の貴重な自然を国民の宝として大切に保護し、将来へと引き継いでいくために、尾瀬地区の利用者に対する普及啓発活動、環境美化活動、施設管理運営が重要な役割を果たすという考えに賛同する人を「尾瀬ボランティア」として募集しています。

《受付期間》 随時受け付けています

《応募にあたってのご注意》 研修・登録が必要です

活動を始める前に、尾瀬ボランティアへの登録を行います。登録のためには、通常4月から開始する通信研修と6〜7月頃に行う現地研修の両方を修了する必要があります。平成31年度の登録を希望する場合は、ボランティア担当までお問い合わせください。

【問い合わせ先】 公益財団法人尾瀬保護財団

TEL: 027-220-4431 FAX: 027-220-4421

寄付のお願い

— 尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております —

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■ 所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。
※所得税、法人税の詳細については、最寄りの税務署、県民税市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせ下さい。

■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承下さい。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

詳細は財団事務局（☎ 027-220-4431）にお問い合わせください。

群馬ダイヤモンドペガサス後援会「ぐんま愛コース」による寄付受納式を開催しました。



2018年12月3日（月）ホテルグランビュー高崎にて、群馬ダイヤモンドペガサス2018年度「独立リーグ日本一」報告会が開催され、その中で今年度の同球団後援会「ぐんま愛コース」による尾瀬保護財団への寄付受納式が行われました。

昨年度は同球団後援会会員のうち、「ぐんま愛コース」の70名の方より一人3,000円、合計210,000円の御寄付をいただき、尾瀬の自然保護活動へ有効活用させていただきました。

特別協賛寄付者のご紹介 ※2月28日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額 1,396,790円



顧客と時代のニーズを追い求めて…

糸井商事株式会社

糸井商事株式会社 累計寄付額 3,600,000円



環境貢献企業

エコ計画

日頃のご愛顧に感謝致します
昔懐に育てられてまもなく50周年
50th Anniversary

株式会社エコ計画 通算寄付額
3,000,000円

自然エネルギーの

共和工業株式会社

(三条市上須頃)

通算寄付額 1,500,000円

SAVE ON

株式会社セーブオン 通算寄付額 8,308,103円

ウォーム・マネー

WARM の MONEY

福島銀行

株式会社福島銀行 通算寄付額 57,882,056円



Minakami Kogen Hotel 200

水上高原ホテル200(水上高原リゾート株式会社)
通算寄付額 1,740,000円

meiji

株式会社明治 通算寄付額 2,400,000円

尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で收受した信託報酬の一部として総額410万円余りをご寄付いただきました。
平成19年より今回が12回目のご寄付となります。 通算寄付総額 68,586,192円



Asset
Management
One

アセットマネジメントOne

アセットマネジメントOne株式会社
通算寄付額 34,293,096円



群馬銀行

株式会社群馬銀行 通算寄付額 32,484,360円



第四銀行

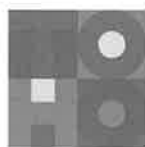
株式会社第四銀行 通算寄付額 6,617,385円



第四証券

Daishi Securities

第四証券株式会社 通算寄付額 1,811,612円



すべてを地域のために

東邦銀行

株式会社東邦銀行 通算寄付額 12,031,164円

協賛寄付者様紹介欄

一般財団法人群馬県警察厚生会

通算寄付額 800,000円



群馬県ビルメンテナンス協同組合

通算寄付額 1,900,000円

群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社 通算寄付額 600,000円

とりせん

株式会社とりせん 通算寄付額 1,658,391円

NICHINEN

株式会社ニチネン 通算寄付額 1,200,000円

その他の寄付者のご紹介

※平成30年10月21日～平成31年1月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

群馬県電力関連産業労働組合総連合、佐藤満、自然を楽しむ会(代表 福嶋耕作)、関本昇、原和也

はるかな尾瀬 2019.3

表紙の風景 ▶▶▶

5月下旬、雪解けとともに湿原や木々の芽吹きが始まります。長い冬を終え、春の訪れを喜んでいるかのような新緑の季節の始まりです。

ミズバショウのピークが落ち着いた6月中下旬、尾瀬は瑞々しい緑に溢れ、訪れた人を清々しい気持ちにさせてくれます。

春のミズバショウ・夏のニッコウキスゲの間の季節になるため、訪れる人も比較的少なくなります。ゆっくり尾瀬を歩き、大自然のパワーを充電するのにオススメの季節です。



撮影日：平成29年6月17日

イベント情報

第23回NHK「わたしの尾瀬」写真展《すべて入場無料》

中之口展

- 期間 2019年4月16日(火)～25日(木)
- 会場 中之口先人館 ギャラリー
(新潟県新潟市西蒲区中之口363)

川口展

- 期間 2019年4月27日(土)～5月6日(月祝)
- 会場 SKIPシティ 公開ライブラリーエントランス
(埼玉県川口市上青木3-12-63 NHK川口アーカイブス)

胎内展

- 期間 2019年5月11日(土)～19日(日)
- 会場 胎内市産業文化会館
(新潟県胎内市新和町2-5)

柏崎展

- 期間 2019年5月25日(土)～6月2日(日)
- 会場 柏崎市立図書館(ソフィアセンター)
(新潟県柏崎市学校町2-47)

※予定は変更になる場合があります

『友の会』コーナー -「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。-

※加入・更新時期は年4回(5月・8月・11月・2月)です。

※8月1日からの加入・更新をご希望の方は6月30日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッチ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料割引：
対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
<https://www.oze-fnd.or.jp>

編集後記

もうすぐ4月ですね。そしてもうすぐ尾瀬のシーズン、今年も5月にビジターセンターに入って開所準備をします。あと1ヶ月余しかないと思うと、入山前までにまだまだやらなければならないことがたくさんあり、かなり焦っています。昨年と同様に今年も雪が少ないと聞いています。今年はどうなシーズンになるのか。皆様のお越しをお待ちしております。(阪路)



OZE Mobile ●緊急情報 ●お知らせ ●ライブ映像 など
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter @oze_info

尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します

